

「国連食料システムサミット」  
菅総理大臣ビデオメッセージ

事務総長、そして、御参加の皆様、

新型コロナの感染拡大や頻発する自然災害などにより、世界で食料不安が深刻化しております。

このサミットの開催は、まさに時宜を得たものであり、開催に御尽力された皆様に敬意を表します。

飢餓の撲滅をはじめ、世界の食料をめぐる様々な課題に取り組む上で、食料の生産、流通といった一連の過程を「食料システム」として一体的にとらえていくことは、極めて重要と考えています。

我が国は、次の3点を重視しながら、世界のより良い「食料システム」の構築に向けて取り組んでまいります。

第一に、「生産性の向上と持続可能性の両立」です。このための鍵となるのは、イノベーションやデジタル化の推進、科学技術の活用です。我が国は、5月に策定した「みどりの食料システム戦略」を通じ、農林水産業の脱炭素化など、環境負荷の少ない持続可能な食料システムの構築を進めてまいります。

第二に、「自由で公正な貿易の維持・強化」であります。食料の輸出入規制は、真に必要最小限なものに抑制されるべきであり、また、恣意的ではなく、科学的根拠に基づいたアプローチがとられるべきと考えます。我が国は、食料分野においても、自由で公正な貿易の旗振り役を、引き続き務めてまいります。

第三に、「各国・地域の気候風土、食文化を踏まえた」アプローチです。我が国は、現場に赴くこと、その土地の方々との対話を大切にして、その地域に合った取組を進めてまいります。

我が国は、12月に、「東京栄養サミット」を主催します。今回の食料システムサミットの成果も踏まえて、世界の貧困と飢餓の撲滅、人々の栄養改善に向けて、国際的な取組をリードしていく決意です。

御静聴、ありがとうございました。

(了)